

<自己評価1回目> ※黄色のセルをすべて記入してください。

項番	1	総事業 項目数	1
----	---	------------	---

整理番号	2025M-	309	補助事業者名	山口県産業技術センター	事業項目名	X線CT装置
------	--------	-----	--------	-------------	-------	--------

## 別紙 JKA補助事業 2025年度 事前計画/自己評価書(4/5)

### 5. 補助事業の自己評価

作成日	2026	年	3	月	10	日	作成者	松田 晋幸
-----	------	---	---	---	----	---	-----	-------

#### (a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、事前計画/自己評価書(3/5①②) 4. 事前計画 に対する達成状況等を把握し、分析・評価してください。					採点
(1) 受益者 (ニーズ)	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)				
(2) 事業内容	事業の実施予定表のとおり機種選定委員会、一般競争入札を順調に実施した結果、計画よりも早い令和7年12月にX線CT装置を導入することができた。導入後は関係職員へのトレーニングを行い、令和8年1月より運用を開始した。またホームページへの掲載やリーフレットの作成・配布の他、当センター主催の報告会やセミナーにおいてポスター展示による機器紹介を行い広報に努めるとともに、利用者に対してアンケート調査を行い、満足度や要望等の把握を行っている。				
	事業の新規性または継続の必要性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点
	事業の発展性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点
	実施計画・体制	機種選定委員会や入札・契約事務を効率的に行うことで、予定より2か月程早く、令和7年12月に導入することができた。導入後は機器担当者が操作方法等のトレーニングを行うなど機器開放に向けて準備を進め、令和8年1月に運用を開始することができたことから、実施計画・体制は妥当であった。			4
(3) 達成目標	事業の実施結果	[達成値] 令和7年12月18日 納入・検収完了	[達成状況] 120%	[具体的内容] 目標値の令和8年2月の導入に対して、2か月程度前倒しで導入(納入・検収)できた。	5
	事業の成果・波及	[達成値] 1.利用時間 61時間/月 2.満足度 100%	[達成状況] 1.102% 2.125%	[具体的内容] 1.目標(60時間/月)の利用時間を達成した。 2.利用者の満足度は目標値(満足度80%)を上回った。	5
(4) 情報発信	事業の実施結果	[達成値] 1.配布数 185部 2.職員への案内 1回 3.HP掲載回数 3回	[達成状況] 1.123% 2.100% 3.100%	[具体的内容] 1. 機器紹介のリーフレットを185部配布した。当センターで開催するセミナーや技術相談窓口で配布し、受益者である地域の企業に周知することができた。 2. 導入時に、当センターの職員に対し、電子メールによる機器案内及び機器説明会を実施した。 3. 当センターHPのJKA補助対象機器専用ページ、新着情報ページ、開放機器ページに掲載した。 その他:令和7年12月に本機器をJKAの補助事業で導入したことを日刊工業新聞に広告記事として掲載した。	5
	競争・オトレス補助金による事業であること	[達成値] 1.配布数 185部 2.HP掲載回数 3回 3.ポスター掲示数 3回	[達成状況] 1.123% 2.100% 3.100%	[具体的内容] 1. 当センターで配布した機器紹介のリーフレットにJKAのロゴマークとJKAの補助を受けた導入した旨を記載して185部を配布した。 2. 当センターHPのJKA補助対象機器専用ページ、新着情報ページ、開放機器ページに掲載した。 3. 補助対象機器の設置場所(1か所)、開放機器受付付近(2か所)に計3枚のJKAポスターを掲示した。 その他:令和7年12月に本機器をJKAの補助事業で導入したことを日刊工業新聞に広告記事として掲載した。	5
(5) 自己評価の体制	令和8年3月9日に自己評価委員会(技術支援部長他5名)を開催し、計画に対する達成状況について評価を行った。(評価過程の記録として議事録を添付する。)評価結果は当センターのホームページに掲載予定である。				4

#### (b) 総合評価

総合 評価点	5
-----------	---

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。	
(1) 事前計画 (2/5)記載の「補助事業の直接的な目的」を踏まえた、事業全体についての意見・所感	既設機器については機械・材料・食品等の分野において製品開発や製造技術、品質評価、製品の強度不足や動作不良等の不具合発生時の非破壊による原因調査としての利用が多かったが、導入から15年以上が経過し、装置本体と制御用端末間での通信障害や動作不良、検出器の感度低下にともなう撮像時の不具合が頻発する状態となっており、企業支援業務に大きな支障を来していた。本事業で導入した機器は従来の利用用途に加え、既設機器よりも高機能・高精密度な測定が可能ことから利用者からも好評をえており、地域企業のニーズに合った機器を導入できたと考えている。
(2) 優れている点・課題、改善すべき点	【優れている点】利用頻度の高い既設機器を更新して導入したことで、運用当初から多くの利用があった。また、既設機器よりも高機能・高精密度な測定ができることで利用者からも好評を得ており、今後の県内企業におけるものづくり技術の高度化に役立てることが大いに期待できる。 【課題・改善すべき点】導入は順調に進み、導入後の利用についても想定通りの利用があった。特に課題や改善点は見当たらない。今後も利用数が維持できるように情報発信等に努める。
(3) その他、アピールしたい点、是非知ってほしい点	導入した機器は、物体の形状測定に利用できることから、3D-CAD、CAEソフト、3Dプリンターなどの3Dものづくり機器と連携して利用することで、3Dモデリング、シミュレーション、3D造形など製品開発の効率化に役立てることが可能。また、機械部品のみならず、食品の内部観察も可能であることから食品関連での活用も期待できる。

【公設[機械設備]